

一般質問から

自民党県議団



阿部 弘樹 (福津市)

福津市の県消防学校校跡地は、地元活性化のために県の施設として活用すべきと考えるが、現在の検討状況を問う。

A 福津市にあった消防学校は、昭和48年の移転以来、延べ1万9千人の消防職員を養成してきた。跡地はJR福岡駅から1.2キロに位置し、周辺道路も整備されるなど交通の利便性に優れ、面積も3万7千平方メートルを超える。多様な用途への活用が考えられる県有財産であり、現在、公営または公共目的の利用について検討を行っている。



板橋 聡 (みやま市)

児童生徒の今後の学力向上の取り組みについて。

A 「未来社会の創り手」としての学力を育む大切さを、学校が地域・保護者と共通理解し機運を高めることが重要で、3月までに全小中学校が地域・保護者に丁寧に説明するよう働きかけている。平成29年度から中1を県版学力調査の対象に追加することで、小5から中3まで切れ目なく状況把握できている。併せて地区間交流研修を充実させ、効果的なマネジメントの具体例を県全体に浸透させていく。



松尾 嘉三 (春日市)

高齢者雇用の場の拡大や、70歳現役応援センターによる企業支援の現状

※( )に掲げている質問は、一般質問の一部を抜粋したものです。

※( )は選挙区を記載

を問う。

A 高齢者が活躍している事例を他の企業にも広げることで雇用の場を増やせると考えている。70歳現役応援センターでは、県内の企業を訪問。高齢者の積極的な採用事例などを紹介し、定年の廃止や延長など「70歳まで働ける制度」の導入を働き掛け、昨年12月末までに565社が制度を導入した。高齢者に適した職場環境や働き方を提案し、求人を開拓を行っている。



片岡 誠二 (中間市)

小・中学校における英語指導力の高い教員の育成について。

A 英語教育の在り方や指導方法等を実践的に学ぶ「小学校教員の英語力・指導力向上研修」を実施し、小学校英語教育推進の核となる教員900名を育成。本年度から当該教員にスキルアップ研修を実施。中学校英語教員には、初任者の段階で全員に英検準1級を受験させるための補助を行い、読む、書く、聞く、話すの4技能をバランスよく育成する授業を英語で行うための研修を行っている。



江頭 祥一 (嘉麻市)

筑豊地域の水田農業の振興について。

A 筑豊地域は水田の割合が9割と高く、米が農業産出額の3割を占める。県は農家所得向上のため、消費者の評価が高い「元気づくし」、収量が多く外食・中食事業者から需要が見込まれる新品種「実りつくし」への作付転換を進

めている。また、生産コストの低減に必要なコンバインなど高性能機械の導入を進め、品質の高い米・麦・大豆を安定的に供給できるように、乾燥調製施設の機能向上や再編整備も支援している。



桐明 和久 (八女市・八女郡)

地方創生の基本である、誰もが住み慣れたところで働き、安心して子どもを産み育て、長く元気に暮らせる地域社会をつくることは、知事の在任2期8年の課題である。知事が評価する何点か。

A それらの取り組みについては、「福岡県人口ビジョン・地方創生総合戦略」で98件のKPIを設定しているが、概ね8割が順調に進捗している。点数付けは施策の展開を通じて県民が評価するものだと考えるが、結果として合格点をつけてもらえればありがたい。※KPI・業績評価指標。企業など組織において個人や部門の業績評価を定量的に評価するための指標。



井上 博行 (福岡市博多区)

福岡・博多の纏振りなど消防伝統技術を文化財として評価することについて。

A 県の文化財として評価するには、消防伝統技術に関する文献などの史料調査、纏など消防道具の調査、江戸時代以降の火災に関する記録の調査など、体系的かつ詳細な学術調査が必要。関係団体の理解と協力を得て、無形民俗文化財としての価値を評価するための「記録選択」の手続きを行い、自治体などが行う学術調査や報告書作成に、専門的見地から指導助言に努める。



香原 勝司 (直方市)

地域の実情等に配慮した持続可能な運動部活動のあり方について。

A 「部員数の少ない複数校の生徒の合同活動」や「隣接する学校で種目が重ならないよう学校ごとに異なる種目を実施する拠点校方式」、「地域のスポーツクラブ等と運動部活動生が共に学校の施設を利用した活動」など様々な形態の部活動を持続可能なものとするため、学校と地域が協働・融合したスポーツ環境を整備し、本県の実情を踏まえた新たな部活動の在り方について調査研究を進める。



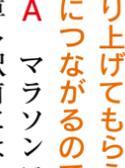
原中 誠志 (福岡市中央区)

「福岡国際マラソン」は、NHK大河ドラマ「いだてん」の主人公、金栗四三氏と深い縁がある。コース周辺の観光スポットを番組等で取り上げってもらうことで、観光誘客につながるのでは。



原中 誠志 (福岡市中央区)

「福岡国際マラソン」は、NHK大河ドラマ「いだてん」の主人公、金栗四三氏と深い縁がある。コース周辺の観光スポットを番組等で取り上げってもらうことで、観光誘客につながるのでは。



今井 保利 (遠賀郡)

高齢者の働く場所の拡大及び子育て中の女性に対する就労支援について。

A 70歳現役応援センターの設置



岩元 一健 (北九州市八幡西区)

愛知県で開催された体験型防犯教室などを参考に全国初となる常設の防犯体験施設を備えてはどうか。

A 愛知県では、体験型施設に2週間程度約2千人の小学生等が参加し反響があったとのこと。本県も関係機関と連携し、専門家を招いて子どもへの安全指導のノウハウを学び、「地域安全マップ」を作るなど体験型学習を通じた地域防犯リーダーの育成を図り、リーダーが各地域で行う体験型防犯教室の取り組みが促進されるよう働き掛けていく。



大田 京子 (福岡市南区)

障がい者グループホームの充実のため報酬単価の引き上げが必要ではないか。

A これまで報酬額等の改善を国に要望してきた結果、今年度の報酬改定ではグループホームの新たな類型として「日中サービス支援型」が創設されたほか、看護職員配置に対する加算が新設された。しかし、利用者数に応じて報酬が決定される現在の仕組みでは小規模で運営されるグループホームでの人材確保は難しいため、引き続き国に要望を続けていく。



新開 昌彦 (福岡市早良区)

低出生体重児向けの母子健康手帳をリニューアルして頂きたい。

A 県は低出生体重児を育てておられるお母さん方の要望をもとに「小さな天使 親子手帳」を作成